

特集 乳腺科

Pink Ribbon 2014

講演会のご案内

*講演会の詳細につきましては、ホームページをご覧ください

● 神鋼 肝炎病診連携セミナー

- 日時：2014年10月9日(木) 18時30分～20時00分
- 場所：神鋼病院呼吸器センター・管理棟5階 大会議室(神戸市中央区脇浜町1-4-47)
- 講演：「C型肝炎治療の最終章～DAAs時代の病診連携に向けて～」
演者：神鋼病院消化器内科 部長 山田 元
座長：間森診療所 副院長 間森 聡 先生
- その他：日本医師会生涯教育制度1.5単位を申請しております。当日は軽食をご準備しております。

● 神鋼病院地域医療連携交流会 ※申し込み必要

- 日時：2014年10月16日(木) 18時30分～20時30分
- 場所：神鋼病院呼吸器センター・管理棟5階 大会議室(神戸市中央区脇浜町1-4-47)
- 講演1：「関節周囲カクテル療法を中心とした人工膝関節置換術における周術期疼痛管理」
演者：神鋼病院整形外科 部長 武富 雅則
- 講演2：「選択的後鼻神経切断術～難治性アレルギー性鼻炎の手術治療～」
演者：神鋼病院耳鼻咽喉科 科長 浦長瀬 昌宏
- その他：日本医師会生涯教育単位2単位申請を申請しております。懇親会を設けております。

● 神戸乳腺チーム医療の会

- 日時：2014年10月24日(金) 19時15分～20時30分
- 場所：神戸メリケンパークオリエンタルホテル4階「瑞天」
(神戸市中央区波止場町5-6 TEL:078-325-8111)
- 講演1：「がん相談支援室における乳がん患者へのサポート」
演者：神鋼病院がん看護専門看護師 安藤 公子
- 講演2：「乳がんと心のケア」
演者：名古屋市立大学大学院医学研究科 精神・認知・行動医学分野 教授 明智 龍男 先生

Info 講演会についてのお問い合わせ

神鋼病院 地域医療連携センター地域医療連携室 担当：浅田
TEL：078-261-6739 (直通)

● 第12回 研究カンファレンス (個の医療研究会共催)

- 日時：2014年10月31日(金) 18時30分～19時30分
- 場所：神鋼病院呼吸器センター・管理棟5階 大会議室(神戸市中央区脇浜町1-4-47)
- 演題：「間葉系幹細胞の臨床応用 - 難治性 GVHD に対する新しい治療 -」
演者：神鋼病院血液内科 医長 吉岡 聡
- その他：日本医師会生涯教育講座 1単位申請しております。

Info 講演会についてのお問い合わせ

神鋼会 総合医学研究センター 担当：兒山 (こやま)
TEL：078-261-6711 (代表)

Contents

- *【特集】乳腺科
Pink Ribbon 2014
- *感染症科医のつぶやき
- *開業医探訪
「たなか内科クリニック」
- *新入職医師のご紹介
- *講演会のご案内

■ 神鋼病院理念

地域医療に貢献し、
信頼される病院を目指します。

■ 基本方針

1. 患者さんの立場にたった「あたたかい」医療を提供します。
2. 個人の尊厳と生活の質を重視した医療を実践します。
3. より良い医療を提供するために、常に学・技の研鑽に励みます。
4. 全ての領域における医療安全に最大限の注意を払います。
5. 快適で清潔な医療環境の構築に努力します。

医療法人社団 神鋼会 神鋼病院

〒651-0072 神戸市中央区脇浜町1-4-47
TEL：078-261-6711 (代表)
FAX：078-261-6726
URL：http://www.shinkohp.or.jp/
発行責任者：病院長 山本 正之
編集責任者：神鋼病院広報委員長 山神 和彦

講演会などの
詳しい情報は
こちらから!!

神鋼病院

検索

<http://www.shinkohp.or.jp/>

■ ピンクリボン月間

10月は乳がん月間で、各地で『ピンクリボンフェスティバル』が開催されます。ピンクリボンフェスティバルとは、乳がんへの関心を高め、検診受診への一歩を踏み出し、「乳がんの早期発見・早期診断・早期治療の大切さを伝える」ことを目的としたフェスティバルです。

神戸はスマイルウオーク(10月18日)やシンポジウム(10月19日)が開催されるなど、このフェスティバルの中心地となっています。しかしながら、神戸市の乳がん検診の受診率となると全国的に最低ラインで、有効な方策が必要です。今年各地域のシンポジウムでは、「心のケア」と題した精神腫瘍学の講演が盛り込まれています。この分野も非常に重要な領域で、神鋼病院乳腺センターでも、地域の乳がん関連医療従事者を対象に、10月24日に神戸乳腺チーム医療の会を開催するほか、10月25日には神鋼リボンの会(患者会)を計画し、名古屋市立大学病院 ころこの医療センターの教授である明智 龍男先生をお招きして、「乳がんと心のケア」を題材とした講演を予定しています。

■ 日本の乳がんの今後

1995年から、乳がんは女性のがんで最も高い罹患率です。罹患率は過去30年で5倍に増加、現在は14人に1人の罹患です。これからも罹患率はますます増加し、約20年後には欧米並みの8人に1人の罹患が予想されています。

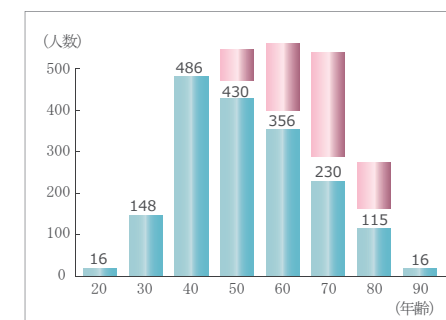
日本を含め、アジア諸国の乳がん患者は40歳代を中心とした若年者が多いことが特徴です。しかし、現状は50～70歳台といっ

た閉経後の乳がんが増加しています。以前にも記載しましたように、閉経後の“肥満”は乳がんのリスク因子として重要です。また、閉経前の“やせ”もリスクを増加させる事が提唱されています。国民健康栄養調査では、50年前に比して、現代は閉経前の“やせ”、閉経後の“肥満”の割合が増加しています。また、40歳台においては日本と米国では罹患率が変わらない事も知られています。

グラフ1は神鋼病院乳腺科設立後9年間の手術症例(1,797例)の年齢分布を示しています。将来は、ピンク部分が増加し、欧米並みに8人に1人が罹患し、相対的に40歳台の乳がん患者の割合は薄まり、減少するのではないのでしょうか。

■ 遺伝性乳がん

乳がんの5～10%は遺伝的な要因が関与することが判明しており、頻度が高く、よく知られているのが遺伝性乳がん・卵巣がん症候群(HBOC)です。BRCA1遺伝子(第17染色体)、またはBRCA2遺伝子(第13染色体)の病的変異の遺伝性疾患です。NCCN(National Comprehensive Cancer Network)ガイドラインでは、変異を持つ女性が将来



◆グラフ1 乳腺科設立後9年間における乳がん手術症例(1797症例)の年齢分布

1つでも該当する人は要注意!!

- 50歳未満で乳がんを発症した血縁者がいる
- 年齢を問わず卵巣がんになった血縁者がいる
- 年齢を問わず、血縁者に初発乳がんを2個以上発症した人が1人いる
- 血縁者に男性乳がんになった人がいる
- 乳がんになった血縁者が3人以上いる
- BRCAという遺伝性乳がんの遺伝子変異が確認された血縁者がいる
- 抗がん薬、分子標的薬、ホルモン療法薬のいずれもの治療が難しい(トリプルネガティブ)といわれた乳がんの血縁者がいる

にがんを発症するリスクは、乳がん(41～90%)、卵巣がん(8～62%)と推測されています。

2013年、米国女優のアンジェリーナ・ジョリーさんが、BRCA1の変異が判明、両側の乳房の予防的切除を公表し、一躍知られるようになりました。全乳がんの5～10%となるとかなりの方が遺伝性乳がんと考えられます。まずは、ハイリスク者の拾い上げが必要

乳腺センター長
山神 和彦
KAZUHIKO YAMAGAMI

平成元年に福井大学を卒業、平成11年に京都大学大学院を卒業。京都大学医学博士。
日本乳癌学会評議員、日本外科学会専門医及び指導医、日本消化器外科学会専門医及び指導医、マンモグラフィ検診精度管理中央委員会読影認定医、日本臨床腫瘍学会暫定指導医、日本癌治療認定医機構暫定教育医などの資格を持つ。

です(前頁表参照)。神鋼病院乳腺センターでは、この領域に対しても積極的に取り組んでいきます。

乳がん手術の変遷

グラフ2は米国における乳房切除術(乳腺を全て切除)の変遷を示しています。2005年より、乳房切除術の割合が増加しています。日本乳がん学会の統計においても、2006年より乳房温存術(乳輪乳頭を残し、癌を含む部分的乳腺切除)の割合が低下傾向で、2011年度は58.8%でした。この要因として、以前は高い乳房温存率が乳腺科としての高評価でしたが、無理した乳房温存術は整容性が悪く、局所再発率の増加が懸念されると意識が変わってきました。他の要因としては、乳房の同時再建術の進歩と浸透が考えられます。

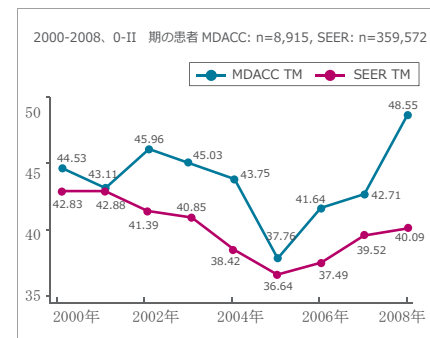
グラフ3は神鋼病院乳腺センターにおける乳房切除術、温存術の過去5年間の割合を示しています。本院では、手術前の抗がん剤治療を取り入れ、腫瘍を縮小させ、温存率を上げる試みを行っていますが、実際は温存率が低下しています。根治と整容性を追求するために、乳房の同時再建を積極的に取り入れているからです。

乳房再建は形成外科医が担当し、再建方法は自家組織(広背筋皮弁、腹直筋皮弁、穿通枝皮弁)あるいはインプラントが用いられます。2014年1月に日本人の乳房の形に有利なアナトミカル型インプラント(写真1)が保険適用になり、インプラントの選択が増加すると考えます。自家組織による再建は、どこかを犠牲に、手術時間も長く、侵襲が大きくなるわけですが、柔らかく、暖かい自然な乳房が再建できます(写真2)。最近の米国のアンケートでは、患者さんの満足度はインプラントよりも自家組織が良好であったようです。アンジェリーナ・ジョリーさんの場合は、乳がん発症前で予防的摘出となります。将来どの部位の乳腺に癌が発生するか判らないので、両側の乳腺は全切除する必要があります。

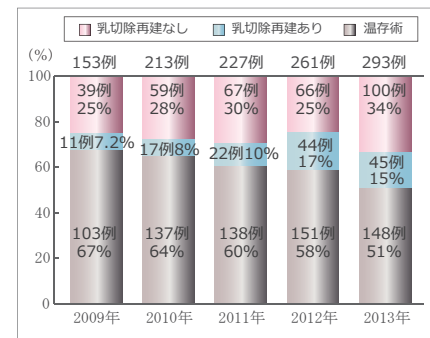
図1は神鋼病院乳腺センターにて施行された過去4年間の乳がん手術(2010~2013年、997例)における同時再建施行例(128例)の切除方法の内訳です。下に切除標

本の写真を提示しています。一部皮膚を合併切除するBt、乳輪乳頭を合併切除するSSM(skin-sparing mastectomy)、乳輪乳頭も温存するNSM(nipple-sparing mastectomy)に分類できます。アンジェリーナ・ジョリーさんはNSMを施行されており、写真2のように最も整容性の良好な手術となっています。

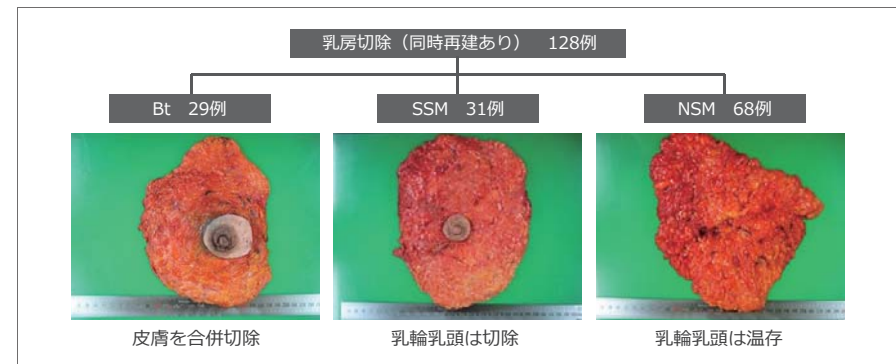
手術方式もどんどん変化しており、薬物治療と同様に個別化の方向に向かっています。根治性を損なわずに整容性を追求する時代に入ってきました。しかしながら、現状の問題点は、乳房再建を行なえる形成外科との連携可能な施設が少なく、かなり限定された施設のみ可能なことです。



◆グラフ2 米国における乳房切除術の年次割合(MDアンダーソンがんセンター、SEERデータ)



◆グラフ3 神鋼病院における乳房切除術と温存術の割合



◆図1 同時再建を伴う乳房切除(2010-2013年)

神鋼病院乳腺センター

神鋼病院乳腺センターでは、形成外科、放射線診断科、放射線治療科、乳腺エコー室、外来化学療法、リンパ浮腫技能士、がん相談支援室等のチーム医療が年々充実してきました。このチーム医療を地域に開放し、利用していただき、検診率の低い神戸ですが、乳がん診療先進地区に引き上げる一助になればと思っております。また、閉経後の“肥満”を減少させていく事も大切で、先生方のご協力をお願い致します。最後に、本センターでは、ICG蛍光法によるセンチネルリンパ節生検法の開発、臨床応用に関わってきました。日本から世界に発信し、注目されているこの手技は神鋼病院ホームページ乳腺科に記載しておりますので、ご参照ください。



◆写真1 アナトミカル型インプラント



◆写真2 右側乳がん、乳輪乳頭温存乳腺全切除(NSM)後に穿通枝皮弁で再建

感染症科医のつぶやき

【昨今の耐性菌事情について】

今回からは、しばらく抗菌薬の適正使用についてお話しします。

皆様は「耐性菌」という言葉から何を思い浮かべるでしょうか。医師や看護師の方はMRSA、手袋、ガウン等を連想されたのではないのでしょうか。病院幹部や感染対策チームの方はアウトブレイク、病棟閉鎖、謝罪会見等を連想されたかもしれません。しかし、私は5月にある新聞記事を読んでから、「不治の病や切断(アンブタ)を思い浮かべるようになる日も近いのではないかと心配になりました。

その記事は、「耐性菌が世界的に拡大していると世界保健機構(WHO)が発表した」というものです。この

内容は、ESBL産生菌等の耐性菌を日常的に目にする我々にとって新鮮なものではないでしょう。しかし、その中には驚くべき記述がありました。それは、「このままでは耐性菌の蔓延が医療レベルを1世紀前のもの(抗菌薬が無かった頃)に戻しかねない」というものです。当時、細菌性肺炎や腎盂腎炎は不治の病であり、四肢の感染症の治療にはしばしば切断が必要でした。このような時代がすぐそこまで来ているとWHOは考えているのです。

耐性菌の蔓延は地球規模の社会問題になってしまいました。我々医療従事者が「耐性菌の蔓延!? そんなの関係ねえ!」では済まされない問題なのです。

開業医探訪

inquires into a doctor

Vol.16

【内科】

たなか内科クリニック

今回は、阪急御影駅北側すぐにある「たなか内科クリニック」を訪問致しました。

◆診療を開始されてどれくらいになりますか?

病気や様々な問題を抱えた患者さんがホッとできるクリニックを目指して、平成20年5月に診療を始め、今年で6年になります。開業にあたり様々な土地を訪ねる中、私自身が「この地で頑張ってみよう!」と元気をもらったこの御影の地に決めました。

◆どのような患者さんが来院されますか?

当初は就労世代の方が多かったのですが、現在は小学校高学年から95歳くらいまでと大変幅広い患者さんが来院されます。また、周辺地域や施設への往診も行っており、現在20数名の在宅患者さんを診療しています。

◆診療にあたり心掛けていることは何ですか?

患者さんは何らかの問題を抱えて来院されます。何を求めているのかをお話を伺いながら感じ取り、現在の問題点について分かりやすく説明しています。そして、生活習慣病に関する指導や慢性疾患に対する方向付けを行いながら、一人ひとりに落ち着いて関わっていくようにしています。

◆ひとこと

最新の医療について日々勉強を積み重ね、患者さんが今一番求めていることに常に対応していくことは重要であると感じています。そしてこれからも患者さんへ「安全」・「安心」・「安楽」な医療を提供できるように努めています。

information

- 神戸市東灘区御影山手1-4-9
クリニックイムブルK201
- TEL : 078-858-7114
- 診療科 : 内科
- 休診日 : 木・土曜日午後、日曜、祝日
- 診療時間

	月	火	水	木	金	土
9:00~12:00	○	○	○	○	○	○
17:00~19:00	○	○	○	×	○	×

